

よえもん

論語から学ぼう

(記念館の玄関前に掲示しています)



《 第62号 》 (2019年度)

シリーズ
よえもん

藤樹先生の代表的な門人
熊 沢 蕃 山 その4



「論語」為政第二 書 淵田瑞穂さん

これを知ると
知らざるを
知らずと為す。
これを知ると
知らざるを
知らずと為す。
これを知ると
知らざるを
知らずと為す。

岡山藩での蕃山は、水害を防ぐために山には木を植え、日照りの害を防ぐために池を掘り、藩の財政や農民の生活のために、力を尽くしました。

また、人間づくりが国のもとと考え、武芸と学問の両方が必要だと、教育の重要さを伝え、それが岡山藩では後に、藩校や閑谷学校へと引き継がれていきました。

蕃山は38歳のとき狩に行き、馬から落ちて負傷しました。翌年、寺口村(岡山県備前市)に住み隠居し、蕃山村と改名しました。その後、現在の京都、奈良、兵庫などを転々とし、茨城県古河市において、73歳で亡くなりました。

60歳のときには、藤樹書院を三男の中江弥三郎に引き渡すために、近江小川村(高島市安曇川町)を訪れています。



くまざわばんざんでいたくあと
熊沢蕃山邸宅跡
(岡山県備前市蕃山)



しゅつば
出馬の絵
(岡山県備前市正楽寺所蔵)

「知っている事を知っていると認め、知らない事を知らないと認めることが大事である。これこそ本当に“知る”と言う事である」という意味です。私たちは知らないことを恥ずかしいと思ひ、知っているふりをしてしまうことがあります。これはかえって恥ずかしいことであると言えます。

まだまだ知らないことがたくさんあるという自覚が大切であり、知ることの努力や知ったことを実行していこうとする気持ち大切です。



* 記念館だより *

藤樹記念館では、今年の1・2月に県内から約1000人の小学生が来館し、6月にもは高島市内の多くの小学校が来館します。時代を担う子ども達が藤樹先生の生き方や教えから多くを学んでいただき大変うれしく思っています。今年度も、藤樹先生の門人で人一倍努力して医者になり、多くの人のために尽くした「大野了佐」にならい、7月30日と8月1日、2日、6日、8日の5日間「了佐てらこや小学校」を開校します。「論語」の素読や毛筆習字、ものづくりや科学体験、資料館の見学などをします。市内の小学校4～6年生を対象に、学校を通して案内を配布します。多くの参加をお待ちしています。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

